

会 議 録

会議の名称	令和7年度第3回茨木市高齢者施策推進分科会
開催日時	令和8年2月26日（木曜日）
開催場所	茨木市保健医療センター 3階大会議室
議長	本多委員
出席者	池浦委員、北川委員、坂口委員、阪本委員、住友委員 長尾委員、藤田委員、本多委員、山田委員、吉田委員（五十音順）
欠席者	綾部委員、柏木委員、立花委員（五十音順）
事務局職員	村上健康医療部長、澤田福祉部長、 北川医療政策課長、多田長寿介護課長 肥塚地域福祉課長、岩崎福祉総合相談課長 石井福祉指導監査課長 神田福祉総合相談課保健師長 山本地域福祉課主幹 松原医療政策課在宅医療係長、西浦長寿介護課管理係長 女鹿長寿介護課認定係長 山本地域福祉課推進係長、杉林福祉総合相談課相談3グループ長 湊長寿介護課職員
議題(案件)	① 市民向けアンケート調査の結果（速報値）について ② 令和7年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金（市町村分）の評価結果について ③ その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・配席表 ・資料1 アンケート調査結果の速報値について ・資料2－1 機能強化・推進交付金について ・資料2－2 インセンティブ交付金の指標結果一覧 ・資料3 令和8年度計画策定スケジュール ・参考資料1 アンケート項目まとめ（R7） ・参考資料2－1 介護予防日常生活圏域ニーズ調査 集計結果 ・参考資料2－2 在宅介護実態調査 集計結果 ・参考資料2－3 介護保険事業者調査 集計結果

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
司会 (西浦)	<p>ただいまから、令和7年度第3回茨木市高齢者施策推進分科会を開催いたします。</p> <p>私は、司会を務めます、長寿介護課の西浦と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>本分科会の会議時間につきましては、90分程度を予定しております。皆様、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、資料等の確認をいたします。本日の会議資料は、事前に送付しております会議次第、資料1から3、参考資料1、2-1から2-3までと、併せて、当日資料として配席図をお配りしております。</p> <p>各資料がお手元にない場合は、係の者がお持ちしますので、挙手をお願いいたします。</p>
本多会長	<p>それでは、会議の議事進行は会長が行うこととなっておりますので、本多会長、よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議を始めたいと思います。</p> <p>本日は、令和7年度第3回目の分科会です。議題1では、「市民向けアンケート調査の結果」と、議題2では「令和7年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金（市町村分）の評価結果について」、こちらといたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、専門的な観点からぜひ積極的に意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、この分科会は原則公開となっておりますので、ご了承いただき、会議録の作成上、ご発言の際にはマイクを使用するようよろしくお願いいたします。</p> <p>では、初めに、事務局から本日の出席状況につきまして、報告をお願いいたします。</p>
司会 (西浦)	<p>本日の委員の出席状況につきまして、ご報告いたします。</p> <p>委員総数13人のうち、出席は9人、まだ、お越しになられていない方がいらっしゃいますので、確定した出席は後ほどご報告させていただきます。なお、現在の出席状況におきましても、半数以上の出席をいただいておりますので、総合保健福祉審議会規則第8条第2項に</p>

<p>本多会長</p>	<p>より、会議は成立しております。 また、本日は1名の方が傍聴されていることを報告させていただきます。</p> <p>ありがとうございます。 それでは、議事に移りますが、会議の進め方について、お諮りしたいと思います。 それぞれの議題について、事務局から説明を受けた後、順次、ご意見とか質問をいただくという形で。 議題1のアンケート調査については、アンケートが3つございますので、アンケートごとに説明いただき、それぞれに質問をお受けしたいと形で考えておりますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>(異議なしの声)</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。 それでは、議題1「市民向けアンケート調査結果の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について」、こちらを事務局のほうからお願いします。</p>
<p>事務局 (湊)</p>	<p>長寿介護課の湊と申します。 お手元の資料1「アンケート調査結果について」をご覧ください。 こちらは、令和7年11月から12月にかけて、市民及び事業者を対象とするアンケート調査を実施しましたが、その調査結果の速報値に関する内容です。 では、資料に沿って説明いたします。 まず、1番から、アンケート調査の回答率については、いずれの調査におきましても前回より回答率は増加しました。 回答率については、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を例としますと、今回の回答率は78.7%でした。こちらの全国平均回答率に関するデータはございませんが、近隣市ですと大阪市では62.7%、高槻市では54.6%、吹田市では58.1%の回答率であったとのことでした。 これらの数値は、前回、令和4年度に実施された同調査について、各市のホームページにて公開されている調査結果報告書を参照しております。 自治体の規模や調査期間等が異なるために単純比較はできませんが、本市での調査は比較的多くの方にご回答いただくことができたの</p>

ではないかと考えております。多くの方に回答いただきましたことを、この場を借りて感謝申し上げます。

次に、2番、主な調査結果についてです。

今回は、速報値の中から、基礎的な数値や、前回調査との有意な差があったもの、令和7年の調査から新たに開始したものを中心に抜粋して報告いたします。

全ての調査結果速報値は、参考資料の1及び2として、全調査項目の一覧とそれら結果の速報値を列挙したものを添付しております。

なお、結果を受けた詳細な分析につきましては、アンケート調査の委託業者とも協力の上、最終報告書にて報告する予定です。

では、ニーズ調査の速報値についてです。

問1・③「あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。」について「介護・介助は必要ない」が86.8%で、前回調査とほぼ同じ数値でした。

一方で、「何らかの介護・介助が必要だが、現在は受けていない」と答えた方は7.2%で、前回調査から1.5ポイント増加しております。

問1・④「現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。」という設問では、前回調査と比較して「ふつう」と答えた方が59%で、前回調査より6.2ポイント増加しました。

問2・⑥「週に1回以上は外出していますか。」については、いずれも前回調査から大きな変化はありませんでした。

前回調査の令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が強い時期でしたが、今回の調査では感染症の影響による高齢者の外出控えなどの影響は見られなかったという結果でした。

問4・⑧-1「次の情報通信機器のうち日常生活でよく使用しているものはありますか。」という設問については、「スマートフォン」を利用している方が66.1%と、前回調査から14.1%大きく増加しました。

この結果は、高齢者全体でスマートフォンの利用率が上がっただけではなく、高齢者の中でも最近65歳になった方など、これまでにも長らくデジタル機器を利用していた方々が、年を重ねて高齢者に分類されるようになったことも要因ではないかと考えております。

問5・①-8「『収入のある仕事』にどれぐらいの頻度で行っていますか。」については、前回調査からほぼ変わらないものの、特に「週4回以上」「週2～3回」働いているという方が1ポイント弱増加しているという結果となりました。

問7・②「あなたは、現在どの程度幸せですか。」については、次

<p>本多会長</p>	<p>の3ページの上部に内訳を掲載しております。前回調査と比較して3点以下と答えた方が少し減り、4点以上と答えた方が増加する結果となりました。</p> <p>なお、この調査結果は、第10次茨木市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画を総括する指標となっております。</p> <p>問7・⑥-1「現在あなたの耳の聞こえの状態はいかがですか。」については、前回調査とほぼ同じ結果でしたが、特に「普通（問題なく聞き取れる）」と答えた方が0.8ポイント増加しています。</p> <p>なお、聞こえと認知症の関係が取り上げられ、市民の皆様からも多くのご要望をいただいておりますので、補聴器の購入の助成につきまして、令和8年度予算に計上するよう議会に提案しています</p> <p>問8・①-1「あなた自身に認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。」という質問は、「はい」と答えた方が11.4%と前回から0.8ポイント増加しました。</p> <p>問8・①-2「あなたが認知症になったら、どんな支援を期待しますか。」という質問は、複数回答の中で「利用できるサービスに関する説明」「認知症や認知症介護に対する理解」「医療機関での相談」「日常生活（買い物など）の手助け」が多く、これらはいずれも前回から引き続き、支援ニーズが高いという結果でした。</p> <p>問9・④-1「終活について、現在、不安に思うことはありますか。」については、こちらは今回初めて行った調査ですが、「自分が受ける介護や医療」「家財の整理・処分」「老後の資金・住まい」と答えた方が多いという結果でした。</p> <p>次に、問9・⑤-1「在宅医療について知っていますか。」については、「知っている」と答えた方が44%、「聞いたことはあるが具体的にはわからない」という方は42.5%という結果でした。</p> <p>また、問9・⑤-2「将来、通院が困難になった時に、在宅医療を受ける選択肢があれば利用したいと思いますか。」という設問は、「利用したい」と答えた方が46.9%で、選択肢の中では最も多いという結果でした。</p> <p>ニーズ調査の速報値については、以上です。</p> <p>説明ありがとうございました。今、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について」の説明が終了いたしました。アンケートの前から皆様にいろいろ意見をいただいていたんですけども、説明を聞きまして、ご意見とか、あとご質問とかございませんでしょうか。</p> <p>お願いいたします。</p>
-------------	--

<p>池浦委員</p>	<p>シルバー人材センター、池浦です。</p> <p>2点ほど質問ですけれども。前回より回答率が伸びているというご説明があったんですけれども、郵送とWEBがあると思うんですけれども、特に今ペーパーレス化が進んでいる中で、WEBの伸び率というのが前回に比べて、どの程度まで伸びているのか。また、今後、ペーパーレス化ということで、WEBを使ったアンケート調査というものに移行されるケースがやっぱり多いと思うので、その辺を今後どのように考えていただけるのか。この辺の今の状態でのご説明できる範囲ですね。</p> <p>それともう一点は、ニーズ調査の中で特にアンケートの回答として「全く参加していない」というような回答が結構あるんですよ。ひどいものになりますと、8割以上の方が「ほとんど参加していません」と、スポーツの行事とか、いろんな市民関係のこととか、教養・学習ですね。これを見ても非常に参加率が悪いということが目についているんですけれども。</p> <p>特にこの辺が今後、行政の中でいろんな課があると思うんですよ。例えばスポーツ振興であればそういうところを通じて、ニュースポーツの紹介とか、やはり新しい動きに対してこういうことをやりますよと、ぜひ皆さんも参加してくださいというようなPRですね。また、私どもシルバーとして、新しい試み、普及啓発活動の中でやっていることを、やはりお知らせするというようなツールをもう少し拡大的に行政のほうでできないかと。横の連絡を取りながら。</p> <p>それと、シルバーだけじゃなくて、いろんな団体、老人クラブとかシニアカレッジ。特にシニアカレッジの中でもいろんな講座とか、やはり教育機関において、高齢者に向けた動きを積極的に取られてるケースもありますので、その辺もできれば拡大的に紹介するようなツールっておかしいですね、ツールを考えていただきたいと。</p> <p>今回のこのアンケートの結果を見て、やはり「参加しない」というところの比率があまりにも多過ぎると。その辺が懸念材料と感じましたので、その辺りを今後の課題として検討をよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございました。ご意見、2つ大きくあったかと思うんですけれども。事務局のほうから、ご意見またはご回答をお願いしてよろしいでしょうか。お願いします。</p>

<p>事務局 (湊)</p>	<p>長寿介護課の湊です。</p> <p>オンライン調査の回答に関するご質問がありましたので、前回調査では、ニーズ調査のWEB回答が実数で112人でした。今回は276人ということで、前回WEB回答は5%ぐらいでしたので、今回10%以上の方にオンラインで回答いただけたと考えております。</p> <p>同じく、在宅介護実態調査、こちらはWEBで回答された方が前回66人でした。今回はそこから数が増えまして186件のご回答をオンラインでいただきましたので、これも3倍ぐらいの数となりました。</p> <p>事業者向けの介護保険事業者調査は今回全てオンラインでの調査としておりますので、回答率でいうと100%となりますけれども、特に市民向けの調査につきましても、オンラインでの回答は前回よりも増えているという結果でした。</p> <p>以上です。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>事務局 (西浦)</p>	<p>長寿介護課の西浦です。</p> <p>様々な課との横の繋がりということでご意見をいただきました。確かに、横の繋がりということでは、介護予防等の観点からも、高齢者の方に社会参加していただくということは、すごく大事なことなのだと思います。</p> <p>そこで、次年度新しく計画を策定していく中で、どういったことができるのかを、委員の皆様からもご意見をいただきながら、計画に反映させていきたいと考えております。</p> <p>今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。事務局から、ご意見とご回答をいただきました。今、参加率のお話をいただいたんですけども、住友委員から何かございますか。</p> <p>お願ひいたします。</p>
<p>住友委員</p>	<p>今の池浦委員のご質問も含めまして、今回のアンケート全体についてコメントさせていただきたいと思うんですけども。</p> <p>非常に解析に苦しむ内容でございまして、一言で申し上げたらやはり座学というのが、大変健康寿命、あるいは健康促進に必要なじゃないかなという結論に至るかなという感じはするんですね。</p> <p>その根拠は、このナンバーの中の22、27、48、102ナンバ</p>

一からいきますと、大変近くで皆さん活動していらっしゃる。要は、遠くに出ていって何か積極的にやろうということでもなしに、近場で歩いていく。かつ、買物を中心としたような生活が大半じゃないかなということから考えますと、そういうことが言えると。

もう一点、健康の調査がございすけども、健康調査の中でもあまり健康という意識に対して低くはないものの、あまり中身が分かってらっしゃらないということから考えると、やはりもう少し座学が要るのかなという感じがいたします。

それから、もう一点、今の先生のご質問に対してなんですけれども、一般的に我々が日常活動しております中で、本来出てきていただきたい方は出て来てくれない。すなわち、出てきたい人は出てきているというのが一般的な傾向で、大体このような数字が並んでいるのはそう不思議じゃないと。これは、日常活動の中でたくさんPRはしてきておりますけれども、なかなか皆さん、聞く耳を持っていただけない。いかにそれを徹底して通達するかっていうのが大変難しい問題かなと、こう考えております。

あと、ついでに言わせていただきますと、今回の結果の中で意外と思いましたのが、非常にびっくりしましたのが、健康が非常によろしいという方が多いと。これにつきましては、大変違和感を感じますのは、今回のこの一括したデータを見てますと、年齢から見ましたときに非常に65歳から90歳以上と幅広いデータを全部一括して健康状態をまとめていらっしゃるんですけども。例えばこの回答者の中で75歳以下は約46%、健康が大体疎外されるという80歳以下が60%の数字で過半数を占めていらっしゃるということは、まだまだ健康が元気な方が大半ですので、健康はいいんだろうなというふうなそういう結果になっているかなと思います。ということは、やはり先ほどおっしゃった年代別、特に70後半を境とした前後でぜひこのデータを再度分析いただきたいなと思います。そうしますと、80歳近いような方はどれぐらい健康が悪化しているかというのが明らかになりまして、どの辺に健康の施策を重点当てたらいいかなというところが分かるんじゃないかなという感じはいたします。

それから、あとできれば地域別にどういうふうな差が出るかということも、もしお調べいただけたら大変ありがたいなと思います。

最後にもう一点。健康という位置づけが、回答された方がそれぞれ違うんじゃないかなと。どういういわゆる判断基準でこの健康ということを理解していらっしゃるのか、非常に難しい部分じゃないかと思えます。例えば「自分は健康です。」と言いながら、別のデータではやはり血圧が高いとか、糖尿だとかいう数値が結構高いんですね。と

	<p>いうことは、自分は健康と思ってても本当は健康じゃないんじゃないかなという内容まで含まれているような感じがいたしますので、もう少し具体的な質問事項があったほうがよかったんじゃないかなという感じがいたします。</p> <p>すみません、長くなりましたが以上です。</p>
本多会長	<p>ご意見ありがとうございました。池浦委員の参加率のところから発展して、実際の現場の声を含めてご意見をいただいたかと思うんですけども。池浦委員、お聞きして、また事務局の回答もお聞きして、何かございますか。大丈夫ですか。</p>
池浦委員	<p>ありがとうございます。将来的にというか、一つの目安としてやはりこのアンケートというものを捉えていただくのは当然のことだと思うんですけども。やはり今のお話の中で、高齢者、特に70から80の間の高齢者に関しては、やはりちょっと注意が必要なのかなと。</p> <p>といいますのは、やはり先ほど申し上げたように参加しないという方が結構おられるというのは、ある意味で今は健康であってもそういう予備軍、フレイルとか認知症に対する予備軍だというふうな捉え方をせざるを得ないというふうに考えておりますので。ぜひ、その辺りを中心に今の住友委員のほうからお話があったように、一つ年代別のまとめ方というんですかね、こういうものを積極的にやっていただきたいなというふうに感じております。</p> <p>いろいろありがとうございました。よろしく申し上げます。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。事務局のほうで住友委員と池浦委員からもご意見を重ねていただきましたけれども、ご意見ございますでしょうか。お願いします。</p>
事務局 (湊)	<p>長寿介護課の湊です。</p> <p>アンケートの分析につきましては、今まさに進めているところではあるんですけども、その中で今お出ししているデータというのはあくまで速報値ですので、年齢別、地域別のデータというのもございます。報告書にどこまで載せるのかというのは、冊子に掲載できる上限もあり、全てを載せることは難しいですが、特に健康の部分について年齢別、圏域別データというのは、まさにおっしゃるとおりかと思っておりますので、報告書でもまとめられるように調整を進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>以上です。</p>

<p>本多会長</p>	<p>お願いいたします。ありがとうございます。</p> <p>先ほど藤田委員が少し手を挙げていただいたかと思うんですが、よろしく申し上げます。</p>
<p>藤田委員</p>	<p>先ほどからお話がありますいろんな趣味のグループとか、学習・教養サークルへの参加の件なんですけれども。私、茨木シニアカレッジで、いこいこ未来塾を運営しております。先日、2月1日にオニクルでシニアネットワーク茨木、ここにおられる市老人クラブ連合会、シルバー人材センター、茨木シニアカレッジ、社会福祉協議会のシニアに関わる4団体でいろいろ活動をしているんですけれども。</p> <p>そこでオニクルでのアクティブシニアフェスタで、アンケートを取りました。そしたら、最後のほうで「いこいこ未来塾、ご存じですか。」って言ったときに、やっぱりまだ知らないという方が多いんですよ。何遍もこの席で言ってるかと思えますけども、シニアに特化した市が運営するこういうのってほかにはないと思います。本当に、全国的に見てね。それを知らないというのは、非常にもったいないと。知らないという方、それから「今後、参加したいと思えますか。」については、「したくない」が47、「したい」が80。だから倍ほど知ってたら参加するよという方がいるんですよ。</p> <p>先日、来年度の受講生締め切りしましたけども、あるコースは40人の募集に対して80名近く応募がありました。残念ながら抽選で選ばせていただきましたけども。やっぱり知らないという部分を何とか市の力をお借りして知らせていきたいと思えます。</p> <p>それから、一ついい話を聞きまして、長寿介護課のほうに関係するはつらつ体操、はつらつ教室。体操とか運動で健康を維持するために活動しているグループがあるんですけども。そこへ来てた夫婦の方が、奥さんのほうがちょっと認知症のある旦那さんを連れて来てたと。何回か通ううちに、ある日、旦那さんが一人で来た。一人で来れたんですよ。だから、体操に参加することで認知症が改善した。やっている側もすごくうれしくて感動したという話を聞きました。そういう事例もあるわけですから、ぜひもっともっとそういう場がありますよということを知らせていただきたいなと思えます。</p> <p>やる側も元気が出ますし、教えてもらう側ももちろん元気になりますし。介護予防、介護に係る行政のほうの費用も軽減するのではないかなと思えます。だから、茨木にあるそういういい点をもっともっとアピールして、積極的に健康づくりを進めていってほしいなと思えます。</p>

<p>本多会長</p>	<p>ご意見、ありがとうございます。ご主人が一人で来られるようになったって。運動と頭を使うのと一緒にやるのは非常に効果的と言われてますけど、まさに実践されてるんですね。ありがとうございます。</p> <p>事務局から何かご意見ございますでしょうか。</p>
<p>事務局 (肥塚)</p>	<p>地域福祉課の肥塚です。</p> <p>シニアカレッジをはじめ、シルバー人材センター、社会福祉協議会、市老人クラブ連合会が、日頃から地域の高齢者の活動に力を入れていただいて、大変ありがたく思っております。</p> <p>市としても本当に素晴らしい活動をしていただいておりますので、バックアップ体制を整えてやっていこうと思っております。もちろん、広報誌への掲載、チラシ等の配布もさせていただいておりますが、やはり高齢者の皆さんの口コミの力が今でもすごいと思います。SNSで発信しても届かなくても口コミで届くというところのほうが大きいと思いますので、その点の働きかけも行っていきたいと思っております。</p>
<p>事務局 (澤田)</p>	<p>福祉部長の澤田です。</p> <p>茨木市では来年度から機構改革を予定しておりまして、介護保険課と長寿政策課という形で高齢者の施策を福祉部で一体的に取り扱っていくという形を予定しております。その中で、今おっしゃられたような周知のことも含めまして、一体的にいろんな施策をやっていきたいというところで、皆様のご意見を聞かせていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。また、次年度体制も変わってということですので、どんどん反映されるといいなというふうに私も思います。ありがとうございます。</p> <p>議題の1つ目につきまして、ほかにご意見ありますか。他に意見がないようですので、次に移ります。</p> <p>「在宅介護実態調査について」、こちらを事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (湊)</p>	<p>では、在宅介護実態調査の調査結果についてです。5ページ、資料1-2をご覧ください。</p> <p>在宅介護実態調査は、A票の調査対象者本人が回答する項目と、B</p>

	<p>票の調査対象者の家族が回答する項目に分かれております。</p> <p>まず、A票、問2・②「現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。」ですが、「入所・入居は検討していない」と回答された方が73.4%と前回調査から2.7ポイント増加しました。</p> <p>在宅介護実態調査は、要介護認定をお持ちで、かつ在宅の方という条件で調査対象者を抽出しているという前提はございますが、7割以上の方が「施設への入所を検討していない」という結果でした。</p> <p>このアンケート結果は、次期計画において施設整備を検討する際に参考にさせていただきたいと思います。また、施設整備につきましては、2024年介護サービス施設等調査において、介護医療院や地域密着型施設のサテライト型運営の拡大等も検討したいと考えております。</p> <p>次に、A票、問2・③、介護保険サービスの利用に関する設問です。「(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。」という設問には、43.7%の方が「利用していない」と回答され、前回調査から9.4ポイント増加しました。</p> <p>次のA票、問4・②「在宅医療を利用していますか。」は、今回から調査を開始した項目ですが、要介護認定をお持ちの方について、在宅医療を利用されている方は11.2%という結果でした。</p> <p>B票の問1・②「主な介護者の方の年齢について」ですが、前回と比較すると50代の方が30%と一番多く、前回調査と比較して5.1ポイント増加するという結果でした。</p> <p>なお、20代及び20代未満であるという回答は、前回からほんの僅かですが減少しました。</p> <p>在宅介護実態調査の速報値については、以上です。</p> <p>説明を終わります。</p>
本多会長	<p>ありがとうございました。今、事務局から調査の結果を報告していただきました。委員のほうからご意見・ご質問はございますか。</p>
山田委員	<p>茨木市高齢者サービス事業所連絡会の山田でございます。よろしくお願ひします。</p> <p>今の調査で一番最初の入所・入居は検討していないという調査項目なんですけれども、一見検討していない方が増えているように見受けられるんですが、ちょっと気になるのは、茨木市内でもいわゆる住宅型有料老人ホームとかサ高住が相当増えている中で、その辺りの状況と照らし合わせたときどうなのかなというのと。</p>

	<p>一方で、次の介護保険サービスを「利用した・していない」の数字なんですけれども、この変化って実はすごい数字の変化かなと思うんですけれども、この辺りは茨木市のほうではどのように評価されているのかお聞きしたいと思います。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。それでは、事務局から、よろしく願いいたします。</p>
事務局 (西浦)	<p>ありがとうございます。長寿介護課、西浦です。 まず、施設の整備につきましては、確かにサ高住等が増えておりまして、そちらに入所される方も増えております。その中で、茨木市としましては、昨年度から特定施設を新たに認定し、事業所数及び床数を増やす取り組みを進めております。今年度も新たに100床の応募があり、新たな事業を選定いたしました。</p>
事務局 (湊)	<p>そこで、次期計画におきましても、地域密着型施設の整備としましては、地域密着型の特別養護老人ホームや小規模多機能型施設、グループホームについて整備を検討しており、施設整備の方針等について分科会でもご意見をいただきながら検討してまいりたいと思います。</p>
事務局 (湊)	<p>長寿介護課の湊です。 介護サービスの利用についてのご質問について、回答させていただきます。茨木市としては、「介護サービスを利用していない」という方が前回から大きく増えて43.7%という結果となりました。実は、全国平均の値を調べますと、同じ質問に対して「利用していない」と答えた方は25.2%でした。 この質問の中にもありますとおり、住宅改修とか福祉用具貸与に関しては利用されている可能性はありますが、やはり全国と比較するとかなり多いのかなと、いうのが今回の調査結果から分かります。よくお守り申請が多いとか、大阪府はそういう傾向があるというお話もありますけれども、我々としてもやはり43%の方が利用していないという結果に対して、今後もう少し調べていくことと、どういう対応ができるのかについては検討していきたいと思っております。 以上です。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。お守り申請、本当に多い感じですね。山田委員、いかがでしょうか。 ほかに委員の皆様からご意見とかご質問とかないでしょうか。大丈夫でしょうか。在宅医療を聞くということに関してアンケートをつく</p>

	<p>るときに、結構いろいろ意見をいただいたかなと思うんですけども、大丈夫でしょうか。特にございませんか。大丈夫でしょうか。お願いいたします。</p>
山田委員	<p>体感的なものであまり根拠はないのですが、16番の訪問介護サービス、ヘルパーのところなんですけど、うちもヘルパーサービス事業所を持ってんですけども、もうオーダーをかなりご要望いただいて、それにお答えがしにくいとかできない状況が本当にすぐそこに迫っているということの中で、この利用回数っていうんですか、本当にその回数が使いたいけど使えないとかいうあたりとの関係性というか、その辺りが私個人が気になりますので、今後その辺りも、またほかのサービスもそうなんだろうけども、また追跡といいますか、またお含みいただいて、いただければありがたいなと思います。</p> <p>以上です。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。事務局、ご意見をいただきましたけどもいかがでしょうか。お願いします。</p>
事務局 (湊)	<p>長寿介護課の湊です。</p> <p>様々なサービスの過不足につきましては、市として指定をしているもの、要は数を規制しているものとそうでないものがありますので、全てにおいて数を調整できるわけではありませんがその過不足の状況について、計画を策定する上での根拠資料としての調査の面もあるんですけれども、来年度に現状を調査する予定としております。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。またよろしくお願いいたします。</p> <p>山田委員、具体的な意見、ありがとうございます。</p> <p>それでは、ほかに意見がないようでしたら、次の調査結果の報告に移りたいと思います。</p> <p>介護保険事業者調査、こちらについて事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局 (湊)	<p>ご説明いたします。介護保険事業者調査についてです。6ページ、資料1-3を御覧ください。</p> <p>問3・④「事業所でのICTの推進について、その体制は整備できていますか。」という設問ですが、「設備・人員ともに整備できている」と答えた事業所は19.4%と前回調査から8.5ポイント減少いたしました。</p>

	<p>一方で、「設備・人員ともに整備できていない」と回答した事業所は43%と前回調査から10.3ポイント増加するという結果でした。</p> <p>問3・⑩「事業所でのICTの推進について、導入しているものを教えてください。」という設問は、今回から調査開始した項目ですが、タブレット端末やペーパーレス化システムの導入が多いという結果でした。</p> <p>事業所のICT化につきましては、今後は介護情報基盤を用いたシステム電子化の予定もあることから、介護人材不足への対応とも関連して力を入れていきたいと考えております。</p> <p>問3・⑤「市ではケア倶楽部で情報を発信していますが、どれくらいの頻度でケア倶楽部を閲覧していますか。」という設問です。回答の中では、52.3%の事業所が、更新通知があれば確認するということでした。</p> <p>ケア倶楽部では、茨木市だけではなく大阪府や厚生労働省からの新規事業や補助金に関するお知らせも随時発信しておりますので、事業所の皆様にはぜひとも登録と定期的な閲覧をお願いしたいと考えております。</p> <p>介護保険事業者調査については以上です。</p>
本多会長	<p>ありがとうございました。介護保険事業者調査について、報告をいただきました。前は、回答率があまり良くなかったという風に記憶がございましたが、今回はほぼ6割の回答いただいたということで、また内容も変わってきているかと思えます。</p> <p>皆様のほうからご意見とかご質問はございますでしょうか。お願いします。</p>
坂口委員	<p>老人介護家族の会の坂口です。</p> <p>ここの1番目にこういうふうに「整備・人員ともに整備できていない」という答えを出したところというのは、これ、今後どういうふうに施設側は考えておられるかの答えはないんですね。これは、単なる聞いてそうなんですと言って、将来自分らの施設がどういう形で経営していくのかとか、支援していくのかというのはこのアンケートでは分からないということで理解していいんでしょうかね。</p> <p>いやに多いのでね。これは全国的にこういうことだとは思いますが。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。問3・④ですね。問3・④の「ICTの推</p>

	進について」。
坂口委員	そうです。問3・④の中の「設備・人員ともに整備できていない」ということをしゃっと言われるんですけども。
本多会長	はい。4割が言ってはりますね。
坂口委員	これでいいんでしょうかと聞いたんです。非常に単純な疑問なんですけれども。
本多会長	なかなか人と物とお金もかかることですのであれかと思いますが、市としてはいかがでしょうかというご意見とご質問をいただいております。
事務局 (西浦)	<p>長寿介護課、西浦です。</p> <p>ご意見をいただきましてありがとうございます。まず、このアンケート自体が茨木市独自のものになりますので、他市との比較は難しいと思っております。</p> <p>また、坂口委員がおっしゃったとおり、介護事業所には現状を聞いたというところで、今後の方針まで事業所に尋ねていないので、このご質問についてもお答えは難しいです。</p> <p>しかし、介護保険の制度におきましては、全国一律のシステムが今後導入される手はずとなっております。また、標準化後に、介護情報基盤の整備が予定されております。このICT化というのが各事業所も対応しないといけないということになりますので、今後、事業所のICT化等につきましては、補助金等の交付もごございますことから、事業所にはアナウンスしてまいりたいと思っております。</p>
本多会長	ありがとうございます。ほかに、ご意見ございますでしょうか。ぜひお願いいたします。
山田委員	<p>高齢者サービス事業所連絡会の山田でございます。</p> <p>アンケートを答えさせていただいた立場といたしましては、この質問項目、恐らくなんですけれども、「設備・人員ともに整備できている」というのは、もう完全に仕上がったというような意図で書かれておられるんじゃないかなと思うんですけども。まだこれ、道半ばのところ結局多いのかなと思いますので、「設備・人員ともに整備できていない」というのは、全く何もできていないということではなく</p>

	<p>て、課題が相当あるので努力はしたいと思っているんですけども、今現状はまだまだ道半ばかなという意図も含めて書かれているのではないかなというふうに思っております。</p> <p>事業所連絡会といたしましても、この辺りしっかりと連携しながら、全事業所が底上げといたしますか、こういうことにしっかりと対応できるように努力してまいりたいと思っております。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。山田委員から回答されたお立場でのご意見をいただきました。ありがとうございます。</p> <p>あと、皆様のほうからほかにご意見ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。</p> <p>事務局からお願いいたします。。</p>
<p>事務局 (湊)</p>	<p>では、3つのアンケートについてはご報告させていただきましたので、今後の流れについてご説明いたします。3番のところ、6ページです。アンケート調査に関する今後の流れについて、説明いたします。</p> <p>冒頭でもお伝えしましたが、この結果を基にアンケートの委託業者により複合的な分析を行い、最終報告書を作成する予定です。最終報告書については、次回令和8年度の分科会にて報告いたします。</p> <p>また、アンケート調査の結果は、令和8年度に策定する次期計画にて基礎資料として活用いたします。</p> <p>以上で、議案1に関する説明を終わります。ありがとうございました。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、これで議案1について終了といたしたいと思えます。たくさん意見いただきましてありがとうございます。</p> <p>それでは、次に参ります。その次、議題2ですね。「令和7年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金（市町村分）の評価結果について」、こちらまた事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (西浦)</p>	<p>長寿介護課、西浦です。</p> <p>令和7年度 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金の評価結果及び交付金額について説明させていただきます。</p> <p>資料2—1をご覧ください。</p>

当該交付金の趣旨につきましては、国が各市町村の「取組」に対して交付金を交付する仕組みであります。

保険者機能強化推進交付金の主な指標は、事業計画等によるPDCAサイクルの構築状況、介護給付の適正化の取組状況、介護人材確保の取組状況です。

介護保険保険者努力支援交付金の主な指標は、介護予防日常生活支援の取組状況、認知症総合支援の取組状況、在宅医療介護連携の取組状況、などの取組状況を評価する仕組みとなっております。

なお、評価基準については、国が決定しており、定期的な見直しがされています。

2 評価結果についてです。

評価結果につきましては、1 ページ下部「合計」欄をご覧ください、保険者機能強化推進交付金と介護保険保険者努力支援交付金の総得点は800点満点中、茨木市は511点で、茨木市が獲得した点数は、全国1,741 市町村のうち、384位です。

交付金ごとでは、保険者機能強化推進交付金が全国249位、介護保険保険者努力支援交付金が全国706位、という結果となっております。

本補助金は評価（点数）が高いほど交付金をもらえる仕組みとなっており、令和7年度、茨木市に交付された金額は51,482,000円となっております。

交付金の活用イメージは3のとおりです。

4 令和7年度、保険者機能推進強化推進交付金は、一般介護予防のうち、地域リハビリテーション活動支援事業、地域介護予防活動支援事業となっております。

包括的支援・任意事業については、介護給付等費用適正化事業、高齢者自立支援等事業となっております。

介護保険保険者努力支援交付金は、括的支援・任意事業のうち、包括的支援事業、在宅医療・介護連携推進事業、認知症施策総合推進事業、高齢者生活支援体制整備事業となっております。

別紙2-2につきましては、各交付金における配点、茨木市の得点、全国平均点を記載しております。

保険者機能強化推進交付金について、体制・取組指標群につきましては、概ね取組めていると評価しております。平均点が取れなかったのは、活動指標、成果指標群であり、これは、厚生労働省が既存統計を活用して評価を行う項目であるため、自動的に得点が付与されます。介護保険保険者努力支援交付金についてです。

体制・取組指標群については概ね平均点以上が取得出来ているので、業務に取り組んでいると評価しております。

	<p>保険者機能強化推進交付金と同様、活動指標群・成果指標群については平均点をとれていない箇所があり、今後、得点が取れるよう取り組んでまいりたいと思います。</p> <p>今回の結果におきましては、茨木市高齢者福祉計画・介護保険計画を策定する時に委員の皆さまから目標設定や評価方法についてご意見をいただき、基本目標ごとに記載したことで、各項目について、一定の評価、進捗状況の確認ができたことで、各交付金がもつめる評価ができたと考えております。</p> <p>説明は以上です。</p> <p>本多会長 ありがとうございます。今、説明が終わりました。ただいまの説明につきまして、皆様からのご意見とかご質問がありましたら、お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>かなり全国1，741市町村の中で300番台というのはなかなかの点数なのかなというふうに思いますが、それでの交付金の使い道について、資料2-2では、低かったところと高かったところの細かいところ、こちらもお示しいただいております。</p> <p>地域包括系のところがちょっと点数が低いのかもかもしれない。何か使い道、今後とかでもいいと思いますので、ご意見があればぜひ、せっかくの場ですので。</p> <p>市民委員のお二人、何かお気づきのこととかもしあれば、お願いいたします。長尾委員、いかがですか。</p> <p>お願いいたします。</p> <p>阪本委員 薬剤師会の阪本です。よろしくお願ひします。</p> <p>包括の出来栄え点というのは、包括では申請した時点で国が上げていくというものの点数なんですか。事業所ごとの。</p> <p>事務局 (西浦) 活動指標群等につきましては、適宜行われる国調査への回答で評価されているというところになりますので、どの時点のものが評価されたかというところまでかは分かりません。</p> <p>阪本委員 入退院支援実施状況というのがあるんですけども、薬剤師会としては、こんなのに関わっていて大阪府からやってください、やってくださいというそういう通達が来ているんですけども。それで実績を重ねていって点数になっていくというものだと思っていたんですけど、そういうことですか。</p>
--	--

事務局 (松原)	<p>医療政策課の松原です。</p> <p>今回のこちらの入退院支援実施状況の評価の部分ですが、ケアマネジャーさんの担当する利用者が病院などに入院されたときに、入院時情報提供書などを送付し、情報共有した部分の評価された。または、退院される際のカンファレンスに参加されてケアプランに反映されたという部分の評価されたものです。</p>
阪本委員	<p>ほかの会議でも出てましたね、その話が。ケアマネがやってくれてないというのが出てましたけれども。あと、認知症サポーターの件数は増えているはずなんですけど、それに伴ってその活動を今後どうしていくかという問題が出てきているということですか。この数字が低いというのは。</p>
事務局 (神田)	<p>福祉総合相談課の神田です。</p> <p>今回の結果を踏まえまして、今後はいろいろ民間事業者等への働きかけもですし、大学であったり、小中学校等、そして市職員を対象とした講座等を含めて受講者の増加に取り組んでまいりたいと考えております。</p>
本多会長	<p>ありがとうございます。いかがでしょうか、阪本委員。</p>
阪本委員	<p>低い点数が多いので。生活支援コーディネーターの数も少なく、多様なサービスの実施状況も少ないということなので、市はそれに対して何か考えておられるかどうかお聞きしたいです。</p>
事務局 (山本)	<p>地域福祉課の山本です。</p> <p>生活支援コーディネーターに関するものが、活動指標群②の項番7になります。全国的なコーディネーターの数というところは把握しておりませんが、大阪府内での配置人数となりますと、茨木市が少ないということではございません。現在ですと、5名配置をしています。高槻市では、令和5年度の数字ですが、2人、おおむね2人から6名程度の配置が大阪府内の状況です。決して茨木市で配置していない、少ないからゼロ点になってしまっているということではないと捉えております。</p> <p>茨木市の方向性としまして、生活支援コーディネーターについては、5つの圏域に分けて1名ずつ配置するという方針を定めております。令和8年度以降につきましても増員の予定というものは特段考えておりません。</p> <p>ですので、先ほど申しあげましたように、府内と比較してもそこま</p>

<p>本多会長</p>	<p>で著しく低い配置人数ではないものと捉えております。</p>
<p>事務局 (岩崎)</p>	<p>よろしく申し上げます。</p>
<p>事務局 (岩崎)</p>	<p>福祉総合相談課、岩崎と申します。 この目標1介護予防日常生活支援を推進するところの活動指標群につきましては、委員おっしゃるようになりかなり低い点数にはなっております。地域包括につきましてもかなり低いんですが、茨木市としては、市内に14か所配置するなど他市に比べてもなかなか手厚くやっているところではございます。</p> <p>ただ、国の基準の中で評価していくとこういう点数になってしまうというのでもございますが、この評価の仕方というのでもまだ分析できていない部分がございますので、この点数が低いことによって市としても入ってくる交付金も少なくなってくるので、やっつけはいたしますけれども、点数を上げるような努力もしていかないといけないと思っておりますので、この低い点数の状況をしっかりと分析した上で、何らかの施策は今後とも取っていきたいと考えているところでございます。ご意見ありがとうございます。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。阪本委員、よろしいでしょうか。</p>
<p>阪本委員</p>	<p>了解しました。</p>
<p>本多会長</p>	<p>ありがとうございます。私見ではあるんですけども、こういう点数ものって書き方、見せ方で結構変わってくるので、何が評価されているのか分からないようなところはそこを調べて、合わせた見せ方というのもお金に直結するので個人的にはしたほうがいいのかというふうに思います。お願いいたします。</p> <p>ほかに、ご意見ございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、議題2を終了といたします。</p> <p>それでは、その次にその他ですね。資料3になるかと思いますが、その他について、事務局からお願いいたします。</p>
<p>事務局 (西浦)</p>	<p>11ページをご覧ください。 資料3「茨木市総合保健福祉計画（第3次）中間見直しにおける審議会・分科会等のスケジュール（案）」についてです。 令和8年度は、第10次茨木市高齢者保健福祉計画・第9期介護保</p>

	<p> 険事業計画の最終年度となり、次期計画の策定年度となることから、本分科会は4回開催する予定としております。現在予定している内容としましては、6月下旬に令和7年度の振り返りを行い、10月中旬に計画の素案を、11月下旬に計画（案）を、翌年の令和9年2月下旬に概要や第10期介護保険料（案）等についてご審議いただく内容を予定しております。 </p> <p> 詳細につきましては、開催日時が近づきましたら改めてお知らせをさせていただきます。 </p> <p> 以上です。 </p> <p> 本多会長 ありがとうございます。事務局から説明をしていただきました今後のスケジュールに関しまして、皆様のほうから質問とかご意見はございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。 </p> <p> 今年いろいろ、次年度ですね。次年度のスケジュールということで、またご確認おきください。よろしく申し上げます。 </p> <p> 特にないようでしたら、事務局からその他、報告をお願いします。 </p> <p> 司会 (西浦) 先ほど、吉田委員が到着されましたので、ご紹介させていただきます。吉田委員は、茨木市民生委員・児童委員協議会から推薦を受けられるとともに、福岡市長から委嘱を受けられ、新たに本分科委の委員となりました。 </p> <p> 吉田委員、一言ご挨拶をお願いいたします。 </p> <p> 吉田委員 (吉田委員挨拶) </p> <p> 本多会長 吉田委員、どうぞよろしくお願いいたします。 </p> <p> 司会 (西浦) 本日の委員の出席状況につきまして、改めてご報告をさせていただきます。 </p> <p> 委員総数13人のうち、出席は10人、欠席は3人となり、本分科会が成立をしていることを改めてご報告させていただきます。 </p> <p> 本日の会議録につきましては、事務局で会議録案を作成し、後日、委員の皆様へ送付をさせていただきますので、ご確認をお願いいたします。 </p> <p> また、次回の分科会は令和8年6月下旬を予定しております。なお、開催日時等が近づきましたら、改めてご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。 </p>
--	---

本多会長	ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、質問とかございますか。質問等はないようですので、本日の議題は全て終了いたしました。ご協力ありがとうございました。
司会 (西浦)	これをもちまして、令和7年度第3回茨木市高齢者施策推進分科会を終了いたします。ありがとうございました。